

信 頼 と 創 造 の 医 療

富山県農村医学研究会会長 越 山 健 二

四年毎に行われる医学総会は平成三年四月第23回が京都市で行われた。総会のテーマは創造、調和、信頼の3つであった。8年前は分科と総合、4年前はサイエンス、アート、ヒューマニティであったと記憶している。医療はいま大きな転換期を迎えたと認識が深まり、人間の一生に焦点をあて、医学、医療の果す役割があらためて検討されはじめたようにも感じた。西洋思想にもとづく科学、技術の進歩発展は生活水準を向上させ、衛生環境の改善から貧困にもとづく疾病を克服し寿命の延長をもたらし、急速な高齢化社会が出現してきました。医療はますます分科し、臓器を中心に究明、治療がすすめられ、臓器移植や体外受精、遺伝子組換えなど、高度の医療器械を駆使した医療に情熱が注がれている。急激に出現した老化の大群に対し、改めて老化の原因、その病態、精神や心理等についても関心が向けられ、特に身心の機能の中核である脳の重要性が認識されてきたように思う。

数量化される物質を重視した医療から今日なお数量化されない精神や心の医療についての反省もみられ、信頼を重視した「生涯の医療」への転換を求めているようにも感じた。

会場ではA. D. L. (日常生活基本動作)や、Q. O. L. (生命の質)、Living Will (尊厳死)、D. N. R. (蘇生法拒否)など住民側の需要や願望の文字が印象に残った。

いま農業は近代化の波の中で大きな変貌をとげ、農民、農家、農村のイメージは一新したが、農業は生命産業ともいわれいのちを産み育てる中で尊い人間性を養い美しい文化を創ってきた。それが今日なお民族の礎として農業、農家、農村に受けつがれている。信頼を重視した新しい医療を創造する場としての農業を評価し、前会長の遺志をついで新たな気持で本学会の目的達成のため各種事業をすすめたいものである。